

どうしていじめが起きるのか。いじめをなくすためにはどうするのか

松原市立天美南小学校 5年 中峯 凧彩（なかみね なぎさ）

わたしは、いじめについて考えます。その前に、いじめはなぜ起きるのでしょうか。

昨年度の大阪府全体の犯罪件数は、約8万148件で、大阪府のいじめの件数は68万1948件です。いじめの件数の方が、犯罪件数より、約60万件も多いことがわかります。

それでは、なぜいじめは起こるのでしょうか。わたしの考えは二つあります。

1つ目は、対人関係が不得意だったり、一人っ子で他の人とのコミュニケーションを取ることが少なかったりするからだと考えました。

2つ目は、自分のストレスを相手に対してぶつけてしまうことがあるからだだと思います。そうすると、自分だけがよい気分になってしまうのではないかと思います。

それでは、いじめをなくすためにはどうしたらよいのでしょうか。

身近な学校の例で考えてみましょう。わたしがもし、学校の先生だったらどうするのでしょうか。例えば、コミュニケーションがもっとたくさんできたらいじめが少なくなるのなら、授業でも話し合いをたくさんすれば少しはいじめが少なくなるかもしれないと考え、グループ交流をたくさん取り入れたらいいと思います。

いじめにはいろいろな種類があり、『いじめが悪いこと』『一生とりかえしがつかないこと』。命は一つしかない。そう考えると、心も一つしかありません。

そんな一つの命、心を傷つけることはけっしていけないことです。わかっているけど、してしまうこともあります。そんなとき相手の気持ちは今、どんな気持ち。今話しかけてもだいじょうぶ。そういうことをわたしはこれから考えていくと少しはいじめがへるかもしれないと思います。

いつも、あたり前に見ていた、家族・友達・先生・まわりの人たちが、すごく大切に思えるようになってきました。

しかも、その友達がわたしのそばにいてくれることが、すごくうれしく思えるようになりました。

いつもたくさんの人と、「ありがとうございます」、「よろしくおねがいします」、「おつかれさまでした」と、声をかけ合います。

こういう身近な一つ一つの言葉が、少しでもストレスや、不満を解消できると思います。

私は、お母さんや家族の人たちから、「あいさつは？」と聞かれることがあります。そのたびに、あいさつをしようと心がけることができます。

これからも、あいさつを大切にしようと思います。そうすることで、少しでも世界を救えると、私は思います。

非行・犯罪をなくすために私ができる事

松原市立天美北小学校 5年 矢野 穂ノ耶（やの ほのか）

犯罪・非行のない地域社会づくりや、犯罪をした人の立ち直りについて、私が考えたことは、学校や家で安心・安全に過ごせる環境を作ることが大切だと思いました。

まず、私は犯罪・非行につながる原因を調べてみました。すると、非行の原因は、本人に関する問題・親の問題・学校の問題があることが分かりました。本人に関する問題の場合、自己肯定感の低さや、発達障害の傾向が非行につながり、親の問題の場合は、過保護・溺愛・放任・無関心が非行につながり、学校の問題は、先生との相性・クラスメイトとの関係が非行につながるそうです。

私は、それぞれの問題について、自分ができていることを考えました。まず、本人に関する問題では、自己肯定感の低さに着目しました。私は現在、代表委員に所属していて、そこで帰りの会にキラキラさん見つけという活動をしています。一日に頑張っていた人を、みんなの前で発表する活動です。キラキラさんに選ばれた人はとてもうれしそうで、自己肯定感が高まっていると感じます。だから私も積極的にキラキラさんを見つけています。親の問題に関しては、毎日のことを積極的に親と話をすることが大事だと思います。私は、家に帰ったら、学校であったことを親に話します。その中でいいことをしたら親はほめてくれるし、ダメなことをしたらきちんと叱ってくれます。親とのコミュニケーションの中で自分の事を大切にしてもらっていると感じます。だから、私は帰ってきたら毎日親とその日にあった出来事を話すようにしています。

学校の問題に関しては、友だち同士のペアコミュニケーションやクラスでのクラスミーティングが効果的だと思います。ペアコミュニケーションは毎日一対一でテーマを決めて話をするものです。何気ない会話から仲が深まることがあるので続けています。クラスミーティングは、学期に一度クラスで輪になり、自分のことで知ってほしいことや、クラスみんなでがんばりたいことなどを、みんなで話し合う場です。クラスみんなが友だちのことを知るよい機会になっています。

次に、非行をした人の立ち直りについては、非行をした人が本当に反省をしているなら、元通りに暮らしていけると思います。本当に反省するためには、その人が立ち直れるように、その人に寄りそってあげる友だちが必要だと思います。そのためには学校で普段から本音を話せる友だちを作ることが大切だと思います。そのために、普段から仲が良くてもダメなことをダメと言い合える関係づくりを意識することが大切だと思います。私自身、友だちといっぱい話をして、自分の事を知ってもらい仲良くなって、いい事もダメなことも言い合える友だちができました。

最後に、非行はいきなり起こるわけではなく、親や友だちとのすれ違いなどから安心・安全な生活が送られなくなることが原因だと思います。だからこそ、家や学校で普段からできることから始めることが大切だと思います。

人とのあいさつを大切に

松原市立松原南小学校 5年 村上 心温色（むらかみ こはく）

私は、人とのあいさつが大切で社会を明るくすると考えました。その経験は、5つあります。

1つ目は、道徳の授業です。授業であいさつが中心的な物語を読んで勉強しました。それで私は、あいさつは人と人との心をつなぐ会話の1つだと分かりました。

2つ目は、近所でのあいさつです。私の家は団地です。おばちゃんやおじちゃんがポストの所でいつも会話をしています。そして、おばちゃんやおじちゃんやいろいろな人が「おかえり、今日は暑いねえ。」

と言ってくれます。引っ越してきたばかりの時は、声をかけられず通り過ぎていましたが、なれてくると、

「おはようございます。」

と言葉を返すことができるようになりました。私は、この会話だけでも楽しいなと思えるようになりました。

3つ目は、あいさつ運動です。私たちの学校は、1年に1度あいさつ運動という代議員が考えた、みんながもっと仲を深められるためにしています。1年生でも参加できるし、1日だけの参加でもバッジをもらうことができます。来年は1度でもいいので参加したいし、あいさつと友だちで元気な学校ができると思いました。

4つ目は、私がかよっている松原南小学校では集団登校があり、みんな交通ルールを守るようにしずかに登校しているふんい気があります。だから、あいさつをすることによって、しずかなふんい気をなくして元気に登校して楽しい1日を過ごしたいです。

5つ目は、犬のさんぽです。いつも犬のさんぽに行って、だいたい10人くらいの人と通りすぎます。夜のさんぽで、

「ねたい。」

と言ったら、

「こんばんは。」

と言ってくれて、ねむ気がさめます。

だから、この5つの経験を生かして、たくさんの人とあいさつをしたいです。

言葉と気持ち

松原市立天美西小学校 6年 菊地 璃音（きくち りおん）

学校に行っていたら一週間に一回は、あまり良くない言葉を聞きます。あまり良くない言葉は、暴言・下品気分が悪くなる、そんな言葉です。学校だから、良くない言葉を聞くのは当たり前だと思う人もいると思います。私もはじめ考えた時はそう思っていたけど、よく考えたら、「なぜ当たり前なんだろう？良くない言葉を使う人がいなくなれば、みんなが過ごしやすくなるのにな。」と不思議に思いました。そこで、なぜ人は良くない言葉を使ってしまうのかを考えました。

ネットで見たから。カッコいいから。おもしろがって。尊敬されたいから。素直に言うのがはずかしいから。怒りがおさえられず、怒りを表す言葉が口から出てしまった。こういった理由ではないかと私は考えました。

なぜ良くない言葉を使ってしまうのか、それはその人の状態や環境などが原因で相手を傷つけようとしているのかもしれないと考えました。私は良くない言葉を聞いた時、「やめてほしい。言われている人や周りの人の気持ちも考えてよ。」と不快になりました。もちろん言われていた人も私には悲しんでいるようにも見えました。このようなことが学校では頻繁に起こっています。実際私も良くない言葉を使ったことがあります。その時は怒りの気持ちでした。言っただけでも、良くない言葉が思いうかんだこともあります。おそらく良くない言葉を聞いたことがある人は、言ったり、思ったりしたことがあるのではないのでしょうか。その時の自分はどんな気持ちだったのだろうか、と思い返してみると自分の気持ちが分かりました。だから言ってしまった後、なぜ言ってしまったのだろうかと自分の気持ちを思い返すことが大事だと思います。それをすることで、良くないことを言わないように直していけると考えます。

みんながこれを意識すると、社会は明るくなると思います。でも全員ができるとは思わないので、周りにいる人の助けが必要です。だから私は、いろいろな人と仲良くなりたいと考えています。日頃の出来事の身近な話から相手を知って、過去の傷ついたことや傷つけたことを話せる時間を作っていき、その人が人を傷つける前に注意していきたいです。そして次から自分で考えられるように関わろうと思います。

私が一番大事だと思うのは、良くない言葉を言っている人が、自分でどうしたら止められるかを考えて行動することです。どうしたら止められるかは、自分で考えるべきだと思います。この言葉を聞いた人は、自分自身に問いかけてほしいです。

小さな感謝の大切さ

松原市立天美小学校 6年 高橋 一倫（たかはし かずみち）

ぼくは社会を明るくするためには、日々のいろいろな所にある小さな出来事の一つ一つに感謝することが大切だと考えています。

そう考えるようになったきっかけは、お父さんの車に乗っている時に気づいた事でした。丁字路で曲がる時や、道に出る時、止まってくれた車に、お父さんが会釈をすると、相手の方も返してくれるということが何度もありました。

このことでぼくがいいなと思った事が二つあります。一つ目は、見ず知らずの人にも感謝の気持ちを示せばそれは帰ってくるということです。「どこで生まれ、どこで育ち、何をするためにこの場所にいるのか、」それがおたがいに分からなくても感謝の会釈一つでつながり、それが返ってきて、またつながる。このサイクルで人の小さな感謝の気持ちは社会に広がっていくんだなと思いました。

二つ目は、言葉が無くても、感謝は伝わると思った事です。言葉が伝わらない環境でも身ぶり手ぶりを使う工夫をすると、相手の方もそれをくみとって返してくれるので、会釈だけでも感謝の気持ちが伝わっています。この延長上に手話などの言葉以外の会話方法があるんだなと思いました。

これ以外でも、日常で小さな感謝を伝え合う場面があると思いますが、その場面一回一回を大切にすることが非行の防止につながると思いました。理由は、だれかに感謝してもらったら、もう一度感謝されるような事をしたくなるからです。こう考えてみてください。あなたが、自主的に家のリビングをそうじして、そのことをだれかに感謝されたとしましょう。そうすると、人に感謝されることがうれしくなって、「またやろう」と思い、それがくりかえされ、それが習慣になります。人に感謝されることが習慣になると、非行などの人に迷惑をかけるような行為をしようとは思わなくなるとぼくは思います。

ぼくは、関西の方言で好きな言葉があります。それは、「おおきに」という言葉です。関西で特にご年配の方が使っている印象があります。そんな「おおきに」は、ありがとうという意味で使われます。「おおきに」は、小さな感謝を伝え合うための言葉だと思います。ぼくのおばあちゃんもよく「おおきに」という言葉をつかうのですが、おおきにと言っているおばあちゃんも、おばあちゃんの友だちの人も心なしか笑っているように思います。日常のちょっとした一コマで、相手に小さな感謝を言葉や会釈で、伝えることは、見ず知らずの人でもいいつながりをつくったり、知人や友人との関係を深めたりしていく意味のある事だと改めて気づきました。

最後にこれから自分にもできることを考えてみました。ぼくは学校で、代議員というクラスを代表する役割をしています。ふつうの学校生活より、他の学校の人たちの前で発表するなどの場面が多くあると思います。そこで学んだ自分以外の人の考え方や思いを自分の学校の人に伝えていきたいです。自分と違う考え方を受け入れ、人に小さな感謝を伝えられる人が増えれば、もっといい社会になると思います。

ぼく自身もふだんの学校生活を見直し、みんなの もはんに なれるような人になりたいです。

「性別」ってむずかしい

松原市立松原東小学校 6年 徳田 愛莉（とくだ あいり）

私は、「体の性別と心の性別が違う人がいる。」と聞いた時、最初はその意味がわかりませんでした。でも、6年生の1学期、総合の学習で、宝本いつみさんという方から、「多数派と少数派」というお話を聞いたことや、LGBTQ（エルジービーティーキュー）の当事者の方が作った動画を見たり、自分なりに調べたりしたことで、「体の性別と心の性別」のことが少しずつわかってきました。

前に、町で髪の毛の短い女の人を見かけたことを思い出しました。その時は「髪の毛が短くて、男の子みたいだな」と思っていました。

そのあと、自分が髪の毛を短く切ることがありました。自分が髪の毛を短く切ってみて、乾かす時間が短くなったことや、切った次の日に「似合ってるね。」といろんな人に言ってもらえてうれしかったことがありました。

あの時の私は、「髪の毛が短い」という見た目だけで、その人の性別を決めつけてしていました。でも、自分が髪の毛を短く切ったことで、短いことにも良さがあることにも気付けたし、自分らしさも感じることができました。

調べていると「男なのに」や「女の子らしく」などの、性別による差別もまだまだあることを知りました。差別があるのは、多くの人が「知らない」ことが原因だと思います。

一人ひとりが同じ人間で、色々な個性があります。その個性を大切にし、自分に自信をもって暮らせるような社会にしていくことが大切だと思います。私はそのために、いろいろな人の思いを聞き、個性を知っていくことを頑張っていきたいです。

子どもの自殺といじめについて

松原市立松原小学校 6年 三好 悠仁（みよし ゆうじん）

ぼくが、テレビでニュース番組を見ていると、子どもの自殺やいじめのニュースを目にすることが多いように感じます。みなさんも、一回はテレビなどで見たり聞いたりしたことがあると思います。インターネットで調べてみると、2008年から2020年までに、300人も増えているということを知りました。だから、ぼくは子どもの自殺やいじめがなくなってほしいと思います。

みなさんが子どもの自殺と聞いて思いうかべるのは、きっと学校のいじめが関係しているのではないかということです。いじめをなくすための提案を二つします。

一つ目は、「周りに広めないこと」です。例えば、自分にとって嫌なことがあった時、すぐに周りに言いふらして広めるのではなく、まず信頼できる友だちや自分の親、担任の先生などに相談するのがいいと思います。ぼくの学校でも、ちょっとした出来事を、すぐに周りに言いふらしてしまい、そのせいでどんどん大きな問題になってしまったことがありました。そして最終的にはその問題から、いじめへと発展してしまいました。だから、いじめにならないように、まずは自分なりに考えて行動しようと思います。二つ目は、「友だちの相談にのってあげること」です。例えば、友だちの様子が変だなと思ったり、最近元気がないなと思ったりしたら、「大丈夫？」や「相談のろか？」などと一声かけるだけで、その子の元気を取りもどせ、自殺防止にもつながると思います。

これらの提案が実現されると、いじめが減り子どもの自殺がどんどん減っていき、学校生活が楽しくなりクラスの雰囲気も明るくなると思います。だから、いつも周りの友だちを思いやる気持ちを大切にしてお過ごしようにしようと思います。また他にも、良い考えがあれば教えてもらいたいし、思いついた時は行動できるような人になりたいです。

犯罪や非行のない世界を創るため

松原市立松原北小学校 6年 湯川 泰晟（ゆかわ たいせい）

世界には犯罪や非行で苦しんでいる人がたくさんいます。そんな人達を少しでも減らすために今回は僕なりに考えてみました。

まず、人はなぜ犯罪を犯したり非行に走ったりしてしまうのかを考えました。人はそれぞれ違った考え方や物の捉え方をします。相手の気持ちを考えずに、自分の意見を押し付けたり自分勝手な行動をすることで相手と衝突してしまい、その結果犯罪や非行に発展してしまうからだと思います。僕たちが生きているこの社会でまっとうに生きるには社会のルールを守る事と相手を思いやる気持ちを持つことが大切だと思います。そして一番大切なのは、お互い認め合う事だと思います。

次に、犯罪や非行を行った人が更生するためにはどうすればいいか考えてみました。犯罪や非行を行った人が更生するためには自分の何がいけなかったのかを理解することと、なぜ犯罪を起こすことで罰せられるのかを自覚することが大事だと思います。そして、その問題についてその人自身が心から反省し納得するが大事だと思います。

僕は、小学校低学年の頃から理不尽な理由で先生から怒られていると思うことがよくありました。その時は、なぜ怒られているのかもわからずとてもイライラしました。自分は悪くない、相手が悪いと思っていたからです。今から考えてみても相手が悪い、原因を作ったのは相手だったのと思うことがたくさんあります。その時は怒られている時間がいやで早く終わらすために相手にあやまりました。でもそんな状況では本当に反省していないし、また同じことで問題に発展することもあると思います。でも冷静になって考えてみると自分にも悪いと思えるところがどんどん出てきました。

怒っている時や興奮しているときは冷静に考える直すことは難しいことだと思います。僕は自分の心のコントロールができずにとっても苦しい思いをしてきました。そんな時、僕はお母さんにクールダウンの仕方を教わりました。ひとりになって深呼吸をして何がいけなかったのかを冷静に考え直します。そうすると心が落ち着き、何が悪かったのかを冷静に考えることができました。そして同じあやまちや失敗をしないようにと心がけることができました。

犯罪や非行をしてしまった人も心を落ち着かせて反省することで同じあやまちはしなくなると思います。そして心から反省できたのであればその人を社会全体で受け入れなければならないと思います。本人が反省し、更生ようとしてても周りが受け入れなければその人の居場所がなくなってしまう、また同じあやまちを犯してしまうかもしれません。社会の一員としてその人を理解し、受け入れることが大切だと思います。そしてみんなでその人を支えていかなければならないと思いました。

今回、改めて「犯罪や非行の無い明るい社会づくり」というテーマについて、とても考えを深めることができました。そして僕は色々な問題を他人事にするのではなく、社会の一員として犯罪や非行の無い明るい社会づくりに取り組んでいかなければならないと思いました。

もっと明るい社会のために

松原市立恵我小学校 6年 高田 遥陽（たかだ はるひ）

私は、もっと社会を明るくするために、「本音を出せる場所」「いろいろな人が協力し合うこと」が大切だと思いました。

私は、悩み事等を一人で抱えこみ続けていると、いつまでも悩んでいることや他の悩み事など、どんどん悩み事が増えていってしまうことがあります。一人で悩みを抱えていると、いつか耐えられなくなって、自分で自分のことを傷つけてしまったり、うつ病などの心の病気になってしまったりするかもしれません。

でも、少しでも、誰かにその悩みを話せば、「一人で戦っているんじゃない。」「悩みを聞いてくれて、理解してくれてうれしい」という気持ちになれて、悩みが軽く、楽になれると思います。

実際に、私も悩んでいたときに、その悩みを話しました。悩みの一部しか話していないけど、一緒にいろいろ考えてくれて、私は大分気持ちが楽になりました。話し相手は、友達、家族など身近な人だけでなく、インターネットで出会った人やAIなどでもいいと思います。身近な人には、話しづらい悩み事もあると思います。そんなときには、インターネットなどを頼ってもいいと思います。他にも、紙などに悩み事や、悩み事に対して思ったことなど本音を書くと、気持ちが楽になると思います。本音を出せる場所があると、少しは気持ちが落ち着くのではないのでしょうか。

また、私は、いろいろな人が協力すれば、もっと社会が明るくなると思います。一人でできないことでも、協力すればできることもたくさんあると思います。そして、仲間が増えることで、心強いと感じてくれると思います。

私も、苦手なことやわからないことがあっても、教えてもらったり手伝ってもらったり、協力してもらってできるようになったりして、とても心強かったという経験があります。

けれども、協力してほしいと伝えることが恥ずかしいと思っている人もいます。協力する側から話しかけた、工夫をしたりして、協力し合うのをもっと当たり前にしていきたいです。

このように、本音を出せる場所を自分でつくっていったり、困っていたら当り前に協力し合えるようにすれば、もっといい社会になると思います。これから私は、友達の相談に乗ったり、本音を出せる場所をつくったり、困っていきそうな人には手伝いが必要かききにいったり、困ったら周りの人に手伝ってほしいと伝えたり、できるだけがんばっていききたいです。

いつかこの考えが広まって、少しだけでも社会が明るくなればいいなと思います。

みんなが幸せな社会を目指して

松原市立三宅小学校 6年 新谷 梨里子（しんたに りりこ）

私は今、世界的に問題になっている食品ロスについて、減らしていきたいと考えています。私がそう考えている理由は二つあります一つ目は、牛や豚、とりなど食材の多くは動物の命をいただいているからです。また、その動物たちにも家族がいたり、大切に育てている農家の方がいたりします。そんな動物たちの命を無駄にするのは良くないと思います。そして、二つ目の理由は世界中に飢えに苦しんでいる人がいるからです。普段、捨ててしまっている食べ物があれば、十分に飢えている人が、飢えに苦しむことなく生きていけるとニュースで見たことがあります。一人ひとりが命の大切さや飢えに苦しんでいる人のことを考えて行動すれば、より良い社会につながるのではないのでしょうか。

私の学校では、食品ロスを減らすための取り組みを二つしています。一つ目は「食ベリピック」ということを、委員会が中心となってやっています。具体的な内容は、給食の残量を委員会の人チェックをします。食べ切れた量に合わせて花丸などのマークをつけてもらいます。みんな花丸を目指して、普段はおかわりをしなかったり、減らしたりする人も頑張って完食を目指しています。

二つ目は、毎年五年生が取り組んでいる米作りです。この取り組みは、地域の土地改良区の方に協力をしてもらって、田んぼのごみ拾いから、田植え、稲刈りや収穫までを体験します。米作りを通して、お米を作る大変さやありがたさを感じることができます。私の友だちは、この体験をするまで給食で苦手なものを減らしていたり、残してしまったりすることもありましたが、農家の方の大変さを知って、残すことなく食べようと思い、少しでも残すことなく食べられるように頑張っています。

私自身が、食品ロスを少しでも減らすために取り組んでいることがあります。それは、自分達が食べ切れる量だけ作ることです。そして、多く作りすぎた時は近くに住むおばあちゃんに分けに行っています。こうすることで、食品ロスを減らすことができ、さらにおばあちゃんと会話をする機会を増やすこともできます。

今、日本で飢えに苦しんでいたたり、明日の食事に困ったりしている人は、世界的に見たら多くはないかもしれませんが。しかし、私たち一人ひとりが命の大切さや飢えに苦しんでいる人のことを考えて行動すれば、食品ロスを減らしていけるのではないのでしょうか。そして、食品ロスを減らす行動が、命を大切に、飢えや食事に困る貧しい人へ関心をもち、その人たちを思いやったり、助けたりすることにつながり、よりよい社会につながると考えています。

犯罪を防ぐためには

松原市立河合小学校 6年 藤田 叶夢（ふじた かのん）

私は毎晩テレビでニュースを見る。その時誰かの命が奪われたり、誰かがさらわれたりする事を知ることがある。私は、嬉しいニュースより悲しいニュースのほうが多いように感じる。どうして誰かが、そんな悲しい目に合わないといけないのだろうか。例え、その人に強い恨みを持っていたとしても、その人の命を奪ってしまったら、罪を犯した人が全て悪くなってしまう。ずっと同じ人のことを恨んで自分の人生がすべて台無しになるのはもったいない。誰かを恨むことで、いろいろな人の人生が奪われていく。恨みを持ち生きていくその人の幸せとは何だろうか？そんな人生で、誰が笑顔になれる？応援したい？感謝する？私は考えた。親からもらったたった一つの命、たった一度の人生、それを大切にしないのは、親に対して失礼だ。そして周りの人、自分に対しても失礼だ。そうならないためにまずは、自分自身を大事にしたい。そして、周りの人を大事にしたい。そうすれば、犯罪のある世界をもしかしたら変えられるかもしれない。だれ一人罪を犯さない世界、誰もが信頼でき、信頼される世界、そんな幸せな世界を作れる事ができると思う。そんな世界を作っていくためにまずできることは、身近な人を恨むのではなく、相手の気持ちに寄り添い、行動することだと思う。

実際に私も悔しい思いをして、相手を恨みたくなくなったことがある。けれど、相手の気持ちに気づき、寄り添ったことで、そうならずにすんだ。そのおかげで、相手から感謝され、嬉しかったことがある。それは、6年生の運動会の応援団長を決めるときのことだ。応援団長は赤白の二人だけしかいなかった。でも、やりたい友だちが私を入れて3人いた。みんなで決めた結果、私が諦めることになり、とても悲しかったし、悔しかった。でも、選ばれた二人も私と同じくらい応援団長になりたい思いがあることも知っていたし、二人は、応援団長にも向いていると思った。だから、二人に「よかったやん。」と伝えた。それは、自分の本音でもある。そしたら二人がわたしに「ありがとう。」と言った。その言葉がとても嬉しかった。そして、「かのんも、一緒に頑張ろう。」と言ってくれた。他の応援団の友だちも「かのんもめっちゃよかったで。」と言ってくれた。悔しい気持ちや悲しい気持ちもあったけれど、相手のことを考えて、声掛けをしたおかげで、自分もいい気持ちになり、今までよりもみんなと仲良くなれた気がした。応援団の練習もみんなで協力してやり切ることができた。もし、私が応援団長を諦めることになったとき、相手の気持ちを考えずに、自分中心に考えて行動していたら、誰も寄り添ってくれず終わっていたと思う。

このような経験を通して、自分のことも周りのことも大切にしていけることが、犯罪をなくしていくことにつながると思う。そして、一人ひとりが、よりよい世界を作っていくために、関わり、協力していければいいなと思う。自分が大切にしたいと思う事を見つけ、どんどん取り組んで、すてきな世界を作っていくために、私も頑張っていきたい。

明るい街作り

松原市立中央小学校 6年 西川 涼太（にしかわ りょうた）

ぼくは、明るい街づくりをするために、3つの方法があると思う。この3つのことを一人一人が意識していくことでよりよい街になっていくと思う。

一つ目は、困っている人を助ける。例えば、家族やお年寄りの人が重そうな荷物を持っていたら、自ら荷物を持ってあげる。しんどそうな人がいたら声をかけて、その人がどうしてほしいかを聞いて対応していく。もし、声をかけても反応がない場合は、周りの人に助けを求めたり、自ら救急車を呼ぶ。目の不自由な人は、白状を持っていたり点字ブロックを頼りにしているので、その人が通る所に自転車や物があるとじゃまになって通れなかったり通りづらかったりするから、通りやすいように自転車や物をどける。

二つ目は、犯罪や非行を無くす。例えば、夜おそくに歩かない。歩くと、悪い人に会ったり悪いことを覚えさせられたりするから。まだ20才になっていないのにお酒を飲んだり、たばこを吸ったりすることを無くす。人の物やお金をとったり、ぬすんだりすることを無くす。最近、ぼくのお姉ちゃんがお金をぬすまれて、とても悲しんでいました。そのすがたを見て、ぼくはかわいそうと思いました。こういうことを無くすことで、一人でも多く悲しむ人が減っていくと思います。また、サギのニュースをテレビやスマホで見ることが多いです。これも、悲しむ人が多いので、ぼくのおじいちゃんやおばあちゃんにも、サギが多いことを伝えています。ぼくのおじいちゃんおばあちゃんだけではなく、他のおじいちゃんやおばあちゃんが困っていたりすると、声をかけてあげることでサギが少しでも減っていくと思います。

三つ目は、みんなとあいさつをすること。例えば、家の近所の人に出会ったら「おはよう」や「こんにちは」や「こんばんは」などのあいさつをすることで近所の人と仲良くなったり、顔をどんどん覚えていく。そうすることで、色々な人と仲良くなって、遊んだり助け合ったりすることができると思う。また、いつもあいさつをしている人がいなくなると、心配になったり不安になったりする。それは、逆に心配してもらえらることもなる。あいさつがないと、こういったことが少なくなるので、あいさつすることが重要だとぼくは思います。

「困っている人を助ける」「犯罪や非行を無くす」「みんなとあいさつをする」。この3つのことを一人一人が意識していくと、松原だけではなく、大阪や関西や日本中が明るい街になっていくと思う。この3つをすることで、明るくにぎやかな街になるし、良いことをするとめぐりめぐって自分に返ってくると思う。みんなが良いことをしていけば、日本だけではなく世界中にも広がって行って、戦争や紛争も無くなって、平和な世の中になるとぼくは思う。

私は、「犯罪」や「非行」が起こる原因に「いじめ」や「がまん」があると考えました。

なぜこのように考えたかという、私が三年生のときの経験からです。私は、いじめにあいました。三年生のときに仲間はずれにされたことがあります。私は、なぜこんな事になったのか、考えても全く分かりませんでした。自分のしたことを思い出してみただけで、それでも全く分からなかったです。このことを、家族の誰かに言いたかったけれど、言いにくくて言えませんでした。それは、お母さんやお父さんに心配をかけたくなかったからです。信頼できる人に伝えることができれば、できていれば、「分かってくれた人がいる」と、安心できただろうなと思いました。

また、私は、言い合いが長くなってしまふとき、腹が立ち、早く終わらせたくて、わざと言い返さないときもあります。言い返したいけれど、怒られると思ったときに、言いたいことをがまんします。

このように、「相談できない状態」や言いたいのに「がまんして心にモヤモヤした気持ちが残ったまま」にしていると、「犯罪」や「非行」が起こってしまうのではないかと思いました。そして、私は、「正直に言うこと」が大切なんだなと思いました。仲間はずれにされたとき、私は先生に言うことができたので、スッキリした気持ちになれました。しかし、言えないままだったら、今の友だちと仲良くできていなかったと思うし、学校にも行きたくなくなっていたかもしれません。なぜかという、自分の言ったことに対して、返事をしてくれたら「分かってくれたんだな」とか、「話をきいてくれているな」と思います。そして、嘘をつかれると、「前にもこの人に嘘をつかれたな」と、信用がなくなってしまう。

このように、生活の中の些細なことや、ちょっとしたことで、人の気持ちが変わると考えています。「返事をする事」や「嘘をつかないこと」を私も自分の経験をもとに、これからの生活のなかで気をつけていこうと思いました。みんなががまんしたりせずに、言いたいことを言い合えたり、自分のことのように人の気持ちを考えられたりすることが「社会を明るくする第一歩」だと思いました。いじめをする人がいなくなったら、もっと良い社会になると思いました。

真新しい気持ち

松原市立松原西小学校 6年 嶋田 涼乃（しまだ すずの）

「社会を明るくする運動」と聞いて、私は地域のつながりについて考えました。今の学校は、近くの学校と合併する話が出ており、それともつながっていると思ったからです。

私は、代議員を三年間やっていて、元々その学校や別の学校とも子ども会議で交流をしていました。子ども会議とは、一年に一回各学校の代議員が集まり、学校の取り組みを発表して、質問などをしあう会議です。他にも色々な交流があり、気になった取り組みがあれば自分の学校に取り入れたりしています。例えば、最近取り入れた取り組みの中であいさつりーという取り組みがあります。あいさつ運動の時にあいさつを返してくれた人にシールを配り、くつ箱近くに用意した木の絵にはるといふものです。あいさつする人が増えれば増えるほど、木がカラフルにはなやかにいき、とても良い取り組みだと思います。

今回の合пейで、私が良いと思うことは、このように学校の良い取り組みが増えるかもしれないということです。その他にも、学校の規模が大きくなるなど、色々あります。

しかし、私は不安でもあります。なぜかという、数年前にその学校の近くの公園に行った時のことがあるからです。その時に公園にいた人に、

「ここは校区外だろ！なんで来た！」

と、どなられたことがあり、それ以来苦手意識がありました。そのころから合пейについての話はありましたが、その時は、とても賛成する気持ちにはなれませんでした。

ですが、その学校からの転校生がやってきて、代議員になって一緒に活動することで、少し考えが変わりました。その子は代議員の取り組みなどを積極的にする、印象のいい子だったからです。もちろん、その学校の人たちは、公園の時のような人ばかりではないと分かっているつもりでした。ですが、無意識に身がまえるほど、偏見があったことに気付きました。たった一つの過去の出来事で、私はそのあたりの人全員に良くない印象をもっていました。今回のことで、人は一人ひとりちがうのだから、ちゃんと一人ずつ向き合っていくことが大事だと気付くことができました。

これから、合пейに向けて話が進んでいくと思います。私は半年後に卒業します、ですが、今年から合пейに向けて何かあるかもしれないし、弟もいるので、全く交流がないとは言いきれません。交流があったときには、今までの良くない印象はいったんおいておき、初めて会う人に対しての真新しい気持ちで向き合おうと思います。

僕が思う犯罪・非行のない平和なまちづくりのために必要なことは、人によって態度を変えるなど、対等ではない関係をなくすことです。

学校の中でも、不平等があったり、友だちによって態度を変えてしまったりする人がいます。僕は、人によって態度を変えることは、いじめにつながると思っています。どんな理由があってもいじめは絶対に許せないことです。いじめをすることは、人を体だけではなく、心までも追いつめていくことになるからです。そして、クラスでいじめが起きていれば、僕はクラスの全員が関係すると思っています。友だちの気持ちを考えないこともいじめにつながると今は考えています。

そう考えている僕自身、昔、態度を変えられて困っている子がいたのに、見て見ぬふりをしてしまったことがあります。遊びに誘ってほしかった友だちがいたのに、その子だけ遊びに誘われずに困っているときに、見て見ぬふりをしてしまったのです。そのときは、自分も何か言われそうと思い、自分が一人になりたくない、傷つきたくないと思い、何もできませんでした。今ではすごく後悔しています。

だから、今後、だれかがいじめられていたら、その子に声をかけたり、いじめられている子をかばってあげたりしたいと思っています。みんなも相手の気持ちをしっかり考えることができるなら、それはできるはずだと思います。今のクラスでまず自分が、見て見ぬふりをしないでいじめられている子を守っていきたいです。

僕は、人を傷つけてしまっている人は、何かのストレスを感じていたり、納得していないことがあったりして、その気持ちの発散として人を苦しめているかもしれないと思います。

僕は、いじめられている子がいたら、見て見ぬふりをしないで止めていきたいと思うので、みんなにもこのような思いを広げていって、協力して声かけをしていきたいと思います。でも、一方で、いじめられている子にも、注意だけではなく、なんでそんなことをしているのか、気持ちによりそえられたらと思っています。そうやって、クラスみんなが平和な状態になればいいと思います。

僕が考える、「平和な状態」というのは、みんなで作っていくものだと思います。布忍小学校では、六年生の一学期にヒロシマ修学旅行に行きます。被爆者の聞き取りから一人ひとりの命の大切さ、平和記念資料館の見学から戦争の悲惨さを感じました。

僕は、誰もが、平和ではないネガティブな気持ちを持っていると思います。その気持ちをそのままにせず、向き合って解決していくことこそ、自分も周りも平等で幸せな状態になると思うし、平和な状態につながるのだと思います。

修学旅行の一日目の夜には、クラスミーティングで、その日の学びをみんなで伝えあいました。しっかりみんなが一人ひとりの方を向いて聞いていたので、みんなの安心につながっていました。このとき、僕は、クラスに平和な雰囲気があると思いました。

しかし、まだクラスみんなが平和で安心できる教室にはなっていないと思います。まだ友だちの悪口を聞くことがあるからです。

クラスみんなが気持ちを言い合って、解決をしていきたいと思っています。

このように、僕は、みんなが平等・公平であることが、社会が明るくなり、平和な状態につながると思います。戦争がある今の社会は平和ではありません。世界中の子どもたちが当たり前前に教育を受けられ、男女関係なく大人も当たり前前に働くことができる、誰一人取り残さない社会づくりのために、まず自分は、自分ができることをやっていききたいです。

自分にできること、それは、身の回りのいじめをなくしていくことです。

一人ひとりが、自分ができることを進めていけば、いじめは絶対になくなると思います。だから、自分がしていきたいと思っていることをみんなと協力して進めていくところから、僕の平和活動を始めていききたいと思います。